

子どもの事故の現状について (消費者庁資料)

平成29年度 第1回
子供の事故防止に関する関係府省庁連絡会議
平成29年10月30日

厚生労働省HP公表「平成28年人口動態調査」から ～子どもの不慮の事故死の現状～

- ①子ども(14歳以下)の不慮の事故死は、病気を含む全ての死因の中で上位である。
②子ども(14歳以下)の不慮の事故死数が、平成28年に年間300人を下回った。

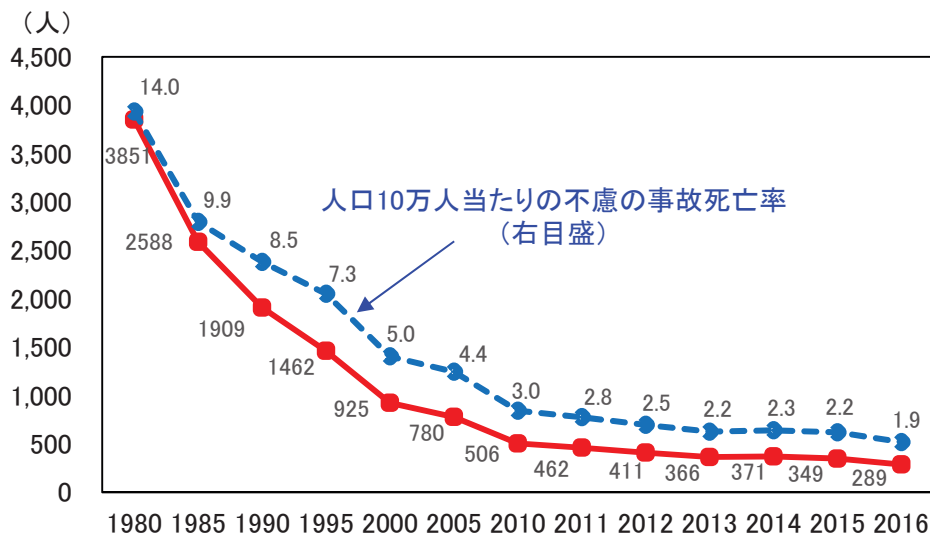
1) 平成17年の死因順位

	1位	2位	3位
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	周産期に特異的な呼吸障害等	乳幼児突然死症候群、 不慮の事故
1～4歳	不慮の事故	先天奇形、変形及び染色体異常	悪性新生物
5～9歳	不慮の事故	悪性新生物	先天奇形、変形及び染色体異常
10～14歳	不慮の事故	悪性新生物	心疾患、自殺

2) 平成28年の死因順位

	1位	2位	3位	4位	5位
0歳	先天奇形等	呼吸障害等	乳幼児突然死症候群	不慮の事故	出血性障害等
1～4歳	先天奇形等	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	肺炎
5～9歳	悪性新生物	不慮の事故	先天奇形等	肺炎	その他の新生物 心疾患
10～14歳	悪性新生物	自殺	不慮の事故	先天奇形等	心疾患

3) 子ども(14歳以下)の不慮の事故死者数の推移



4) 平成28年の子ども(14歳以下)の不慮の事故死数

死因別	死亡数	主な消費生活上の事故(以下は例示)
交通事故	91	自転車や自動車を利用中の事故
窒息	94	就寝時の窒息、食品・玩具等の誤えん
溺水	68	浴槽での溺水
転倒・転落	17	建物からの転落
火事・やけど	11	ライターの火遊びによる火災
その他	8	有害物質、原因不明等
合計	289	

※ 3)、4)については、自然災害による死亡を除く。

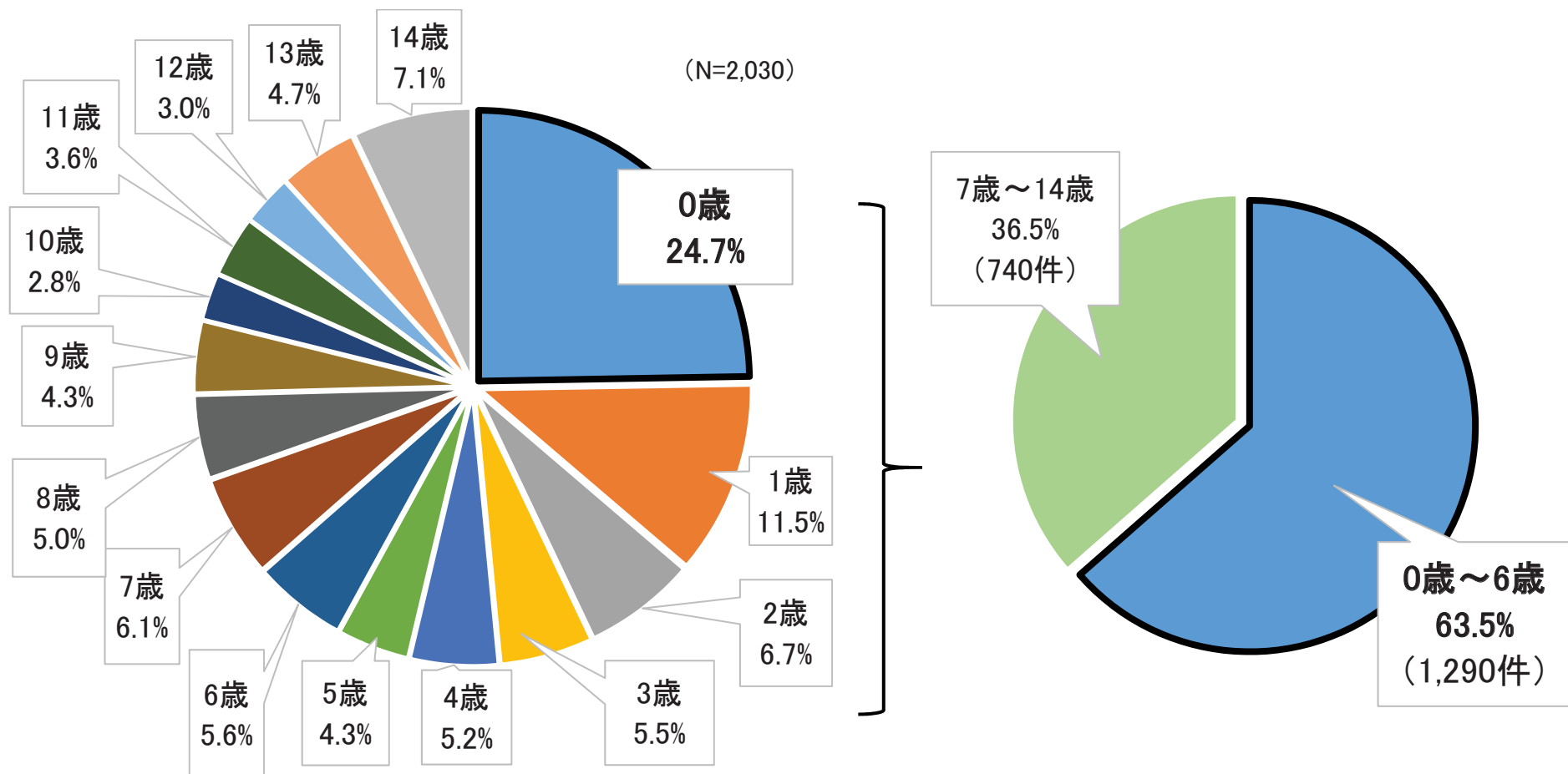
消費者庁による「人口動態調査」 個票データの分析①

(対象：平成22年から平成26年の5年間)

※ 自然災害による死亡を除く。

年齢別の事故発生比率

- ①平成22年～平成26年の5年間の子どもの不慮の事故死、2,030件のうち、0歳が1/4を占める。
- ②0歳～6歳が全体の64%を占める。



消費者庁による「人口動態調査」 個票データの分析②

(対象：平成22年から平成26年の5年間)

※ 自然災害による死亡を除く。

年齢別に多い死亡事故について(年齢別の発生比率)

- ①「窒息」は、0歳で圧倒的に多く発生しており、1～2歳でも上位を占めている。
- ②「交通事故」は、1歳以上で全て1位である。
- ③「溺水」は、1歳以上で全て2位、3位以内であり、5歳以上で屋外での「溺水」が多く発生している。
- ④「建物からの転落」は、3歳～4歳で2位で、5歳以上で5位以内に入っていることが多い。

	1位	2位	3位	4位	5位
0歳	窒息(就寝時) 31.9%	窒息(胃内容物の誤嚥) 22.5%	窒息(詳細不明) 11.0%	窒息(食物の誤嚥) 9.8%	交通事故 5.8%
1歳	交通事故 28.2%	溺水(浴槽内) 23.1%	窒息(胃内容物の誤嚥) 9.4%	窒息(食物の誤嚥) 7.7%	窒息(その他の物による誤嚥) 5.1%
2歳	交通事故 43.4%	窒息(胃内容物の誤嚥) 8.1%	溺水(その他原因) 7.4%	窒息(食物の誤嚥) 5.9%	窒息(詳細不明) 4.4%
3歳	交通事故 36.6%	建物からの転落 16.1%	溺水(屋外) 8.9%	溺水(浴槽内) 7.1%	窒息(食物の誤嚥) 5.4%
4歳	交通事故 35.8%	建物からの転落 13.2%	溺水(浴槽内) 8.5%	溺水(その他原因) 8.5%	溺水(屋外) 7.5%
5歳	交通事故 47.1%	溺水(屋外) 13.8%	溺水(浴槽内) 6.9%	溺水(その他原因) 4.6%	建物からの転落 3.4%
6歳	交通事故 49.6%	溺水(屋外) 19.5%	溺水(その他原因) 6.2%	溺水(浴槽内) 4.4%	建物からの転落 4.4%
7歳	交通事故 58.5%	溺水(屋外) 20.3%	溺水(その他原因) 5.7%	建物からの転落 3.3%	その他の転落 2.4%
8歳	交通事故 57.4%	溺水(屋外) 16.8%	溺水(その他原因) 5.0%	窒息(食物の誤嚥) 4.0%	建物からの転落 4.0%
9歳	交通事故 44.8%	溺水(屋外) 17.2%	建物からの転落 6.9%	溺水(その他原因) 6.9%	不慮の首つり・絞首 4.6%
10歳	交通事故 51.8%	溺水(浴槽内) 10.7%	溺水(屋外) 8.9%	窒息(食物の誤嚥) 5.4%	不慮の首つり・絞首 3.6%
11歳	交通事故 37.0%	溺水(屋外) 20.5%	建物からの転落 8.2%	溺水(浴槽内) 6.8%	溺水(その他原因) 5.5%
12歳	交通事故 45.9%	溺水(屋外) 16.4%	溺水(浴槽内) 13.1%	窒息(詳細不明) 6.6%	窒息(胃内容物の誤嚥) 3.3%
13歳	交通事故 44.2%	溺水(屋外) 16.8%	溺水(浴槽内) 12.6%	建物からの転落 7.4%	窒息(食物の誤嚥) 4.2%
14歳	交通事故 38.9%	溺水(屋外) 19.4%	溺水(浴槽内) 11.8%	建物からの転落 9.7%	溺水(詳細不明) 4.2%

消費者庁による「人口動態調査」 個票データの分析③

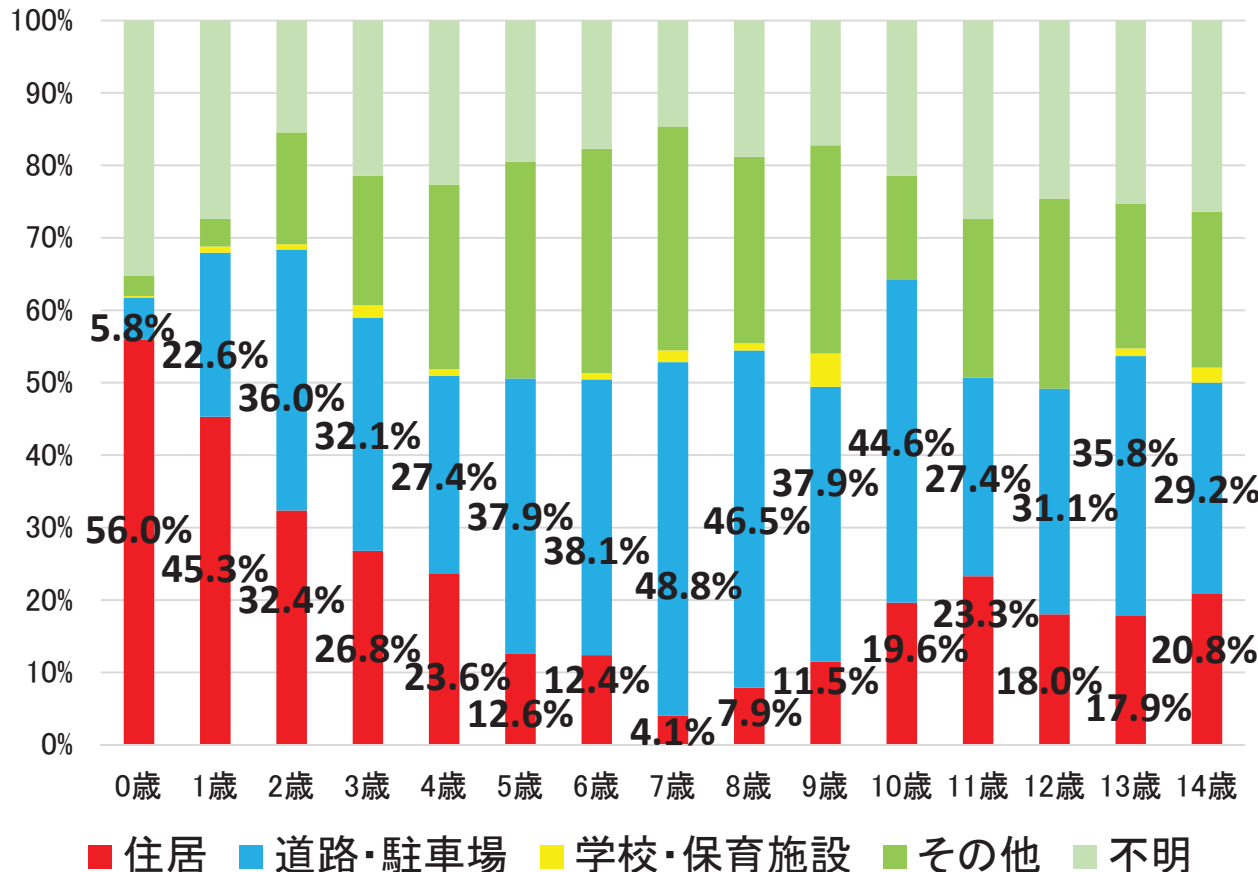
(対象：平成22年から平成26年の5年間)

※ 自然災害による死亡を除く。

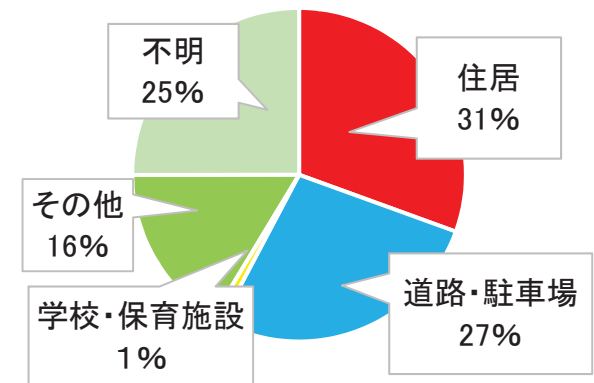
事故発生場所について

- ① 事故発生場所は、住居(家庭内)と道路・駐車場で約6割を占めている。
- ② 低年齢(0～6歳)の子どもほど、住居(家庭内)での事故が多くなっている。
- ③ 道路・駐車場で事故死の要因は交通事故がほとんどを占めている。

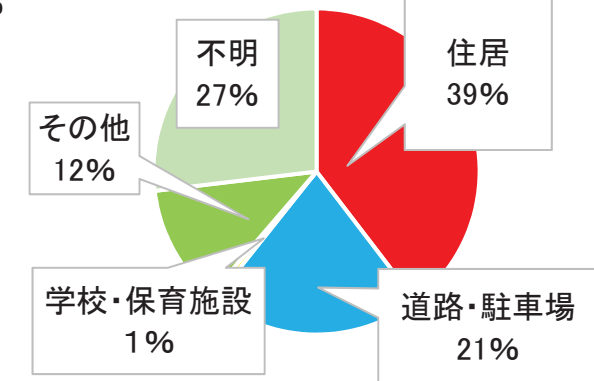
1) 年齢別の事故発生場所



2) 子ども(14歳以下)全体



3) 0歳～6歳の場合



消費者庁による「人口動態調査」 個票データの分析④

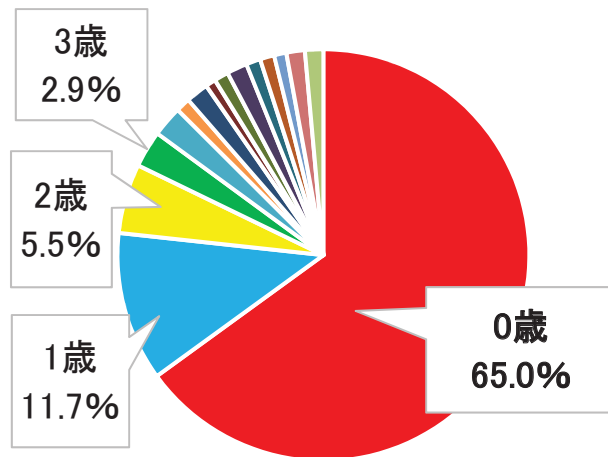
(対象：平成22年から平成26年の5年間)

※ 自然災害による死亡を除く。

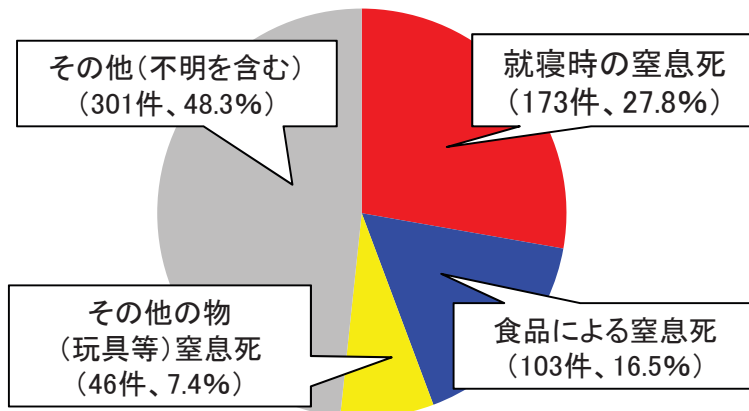
窒息死事故について

- ①子ども全体(14歳以下)で5年間に623件の窒息死事故が発生しており、0歳児が最も多い。
- ②窒息死の要因で多いのは、就寝時、食品、その他の物(玩具等)によるもので、0歳児が最も多い。

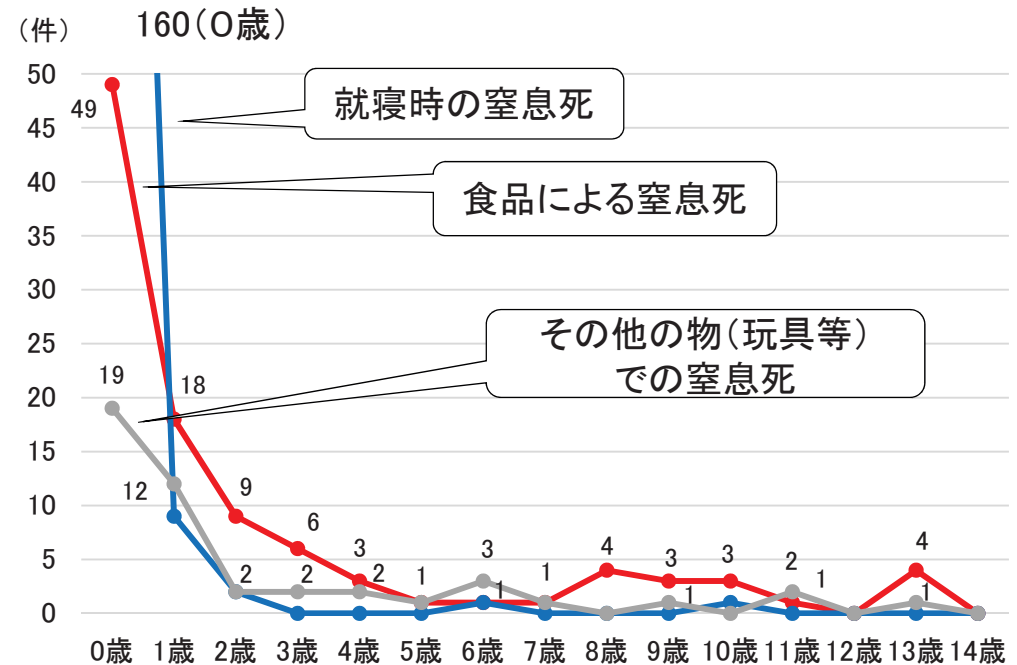
1) 窒息死の年齢別比率 (N=623)



2) 窒息死の要因件数比率



3) 主な事故の年齢別



4) 事故発生の状況(例)

- ・自宅でベッドとマットに頭が挟まり窒息した。
- ・自宅で2cm大のボールで遊んでいた所、誤って口に入れて窒息した。
- ・食事中に苦しがり、窒息した。

消費者庁による「人口動態調査」 個票データの分析⑤

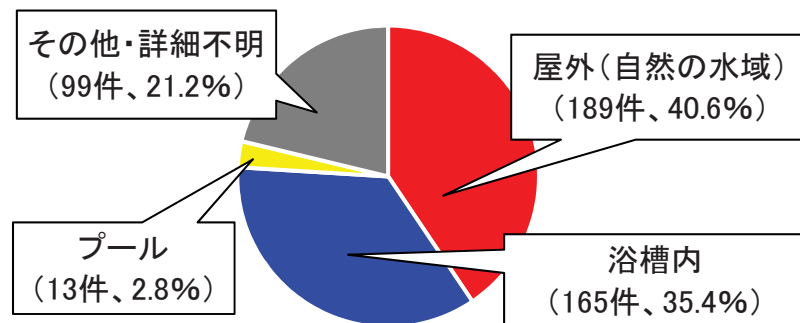
(対象：平成22年から平成26年の5年間)

※ 自然災害による死亡を除く。

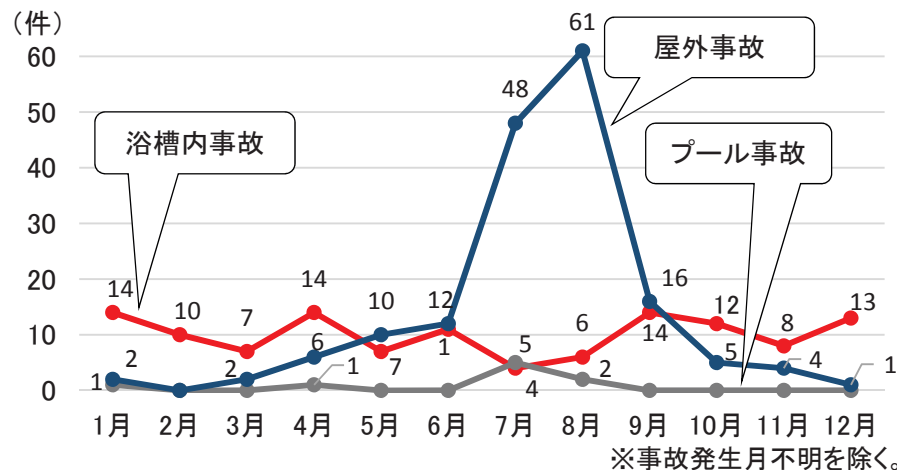
溺水(溺死)事故について

- ①子ども全体(14歳以下)で5年間に466件の溺水(溺死)事故が発生している。
- ②事故発生場所は、屋外(自然の水域:海、川、池等)での事故が最も多く、次いで浴槽内である。
- ③事故の発生時期は、屋外が夏期に圧倒的に多く発生し、浴槽内は、年間平均的に発生している。
- ④事故の年齢別では、0歳～1歳は浴槽内、より活動的になる5歳以上で屋外が、最も多く発生。

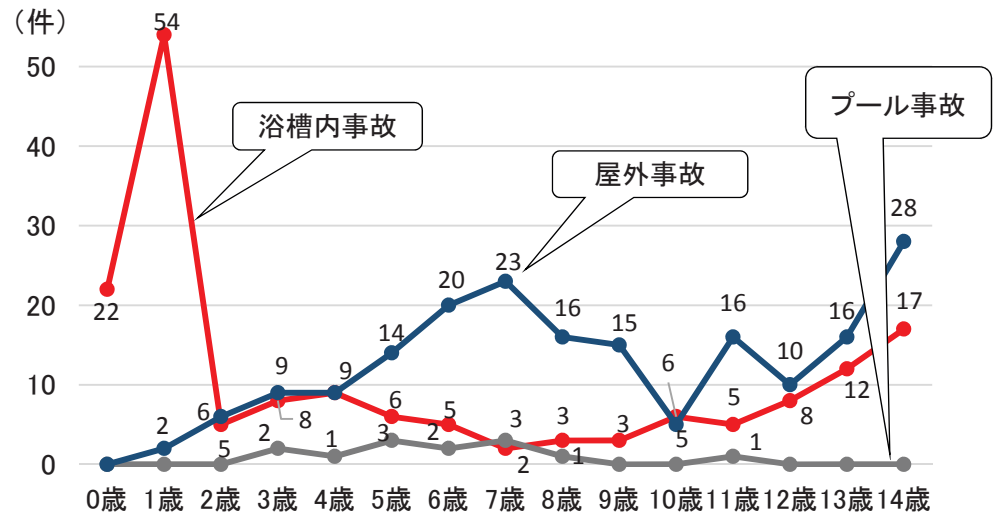
1) 事故発生場所 (N=466)



2) 主な事故の発生時期(月別)



3) 主な事故の年齢別



4) 事故発生の状況(例)

- ・1人で入浴していて、様子を見たらうつぶせで浮かんでいた。
- ・親と一緒に入浴し、少し目を離した時に、うつぶせで浮かんでいた。
- ・海、川、池やため池で遊んでいる時に溺れた。
- ・幼稚園や学校のプールで溺れた。

消費者庁による「人口動態調査」 個票データの分析⑥

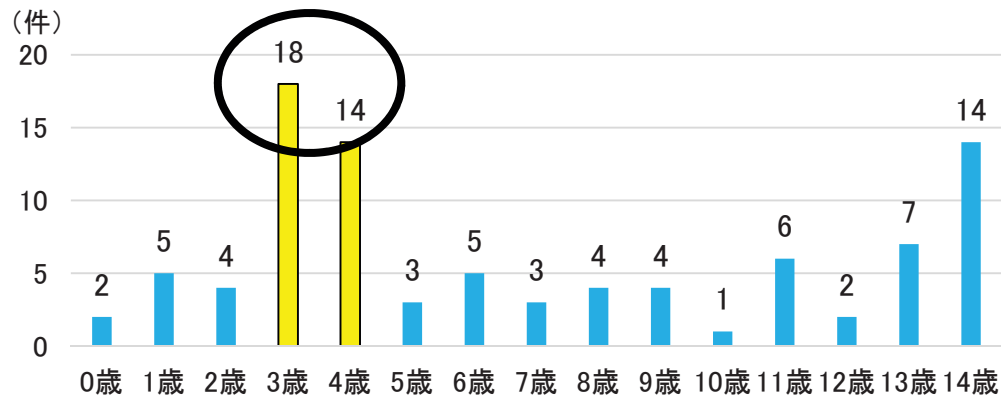
(対象：平成22年から平成26年の5年間)

※ 自然災害による死亡を除く。

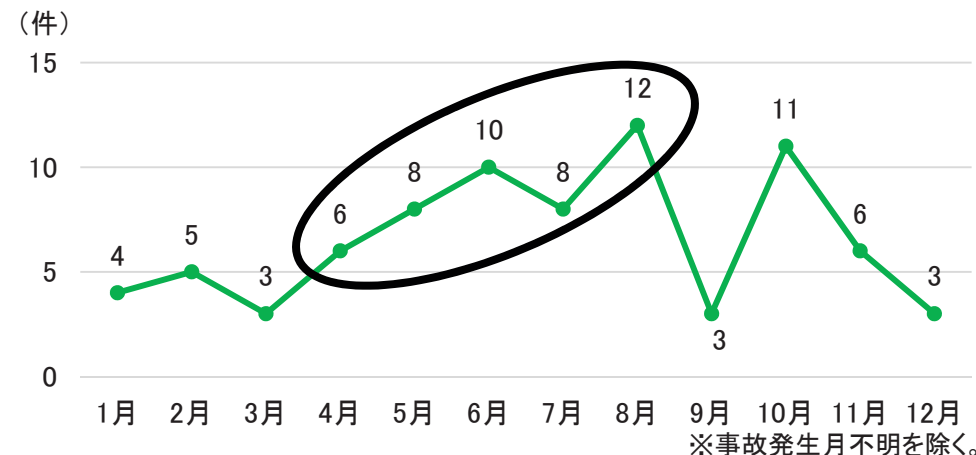
建物からの転落事故について

- ①子ども全体(14歳以下)で5年間に92件の建物からの転落事故が発生している。
- ②事故の年齢別には、活動的になる3～4歳の事故発生が多い。
- ③事故の発生時期は、窓等を開ける機会が増える、春～夏に事故が増加している。
- ④多くが住居(家庭)で発生し、マンションのベランダや戸建2階からの転落等が発生している。

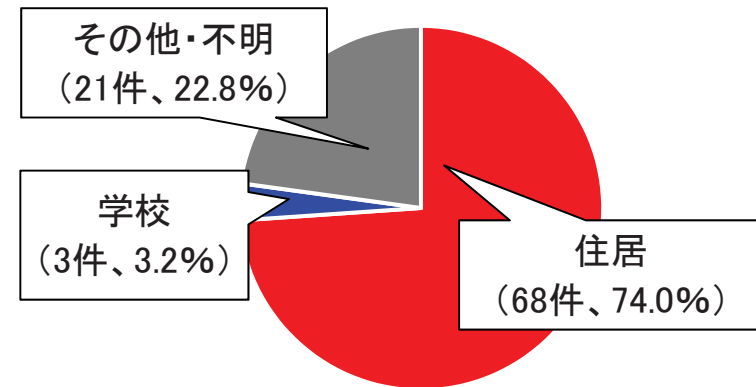
1) 事故の年齢別 (N=92)



2) 事故の発生時期(月別)



3) 事故発生場所



4) 事故発生の状況 (例)

- ・マンションのベランダの椅子に乗り、転落した。
- ・マンションの部屋の出窓から転落した。
- ・友人と遊んでいて、自宅ベランダから転落した。
- ・マンション屋上の天窗のガラスが割れ、転落した。
- ・戸建2階の部屋の窓から転落した。
- ・学校の2階の教室窓から転落した。

医療機関から寄せられた子どもの事故報告件数の内訳①

(対象：平成28年4月から平成29年3月、医療機関ネットワーク事業※1 参画医療機関30病院)

- ①平成28年4月～平成29年3月に8,286件の事故報告があり、危害の程度※2では、中等症以上が1,159件で全体の約14%を占める。
- ②報告件数が多い事故のきっかけ※3は、「転倒」、「転落」、「ぶつかる・当たる」、「誤飲・誤嚥」、「さわる・接触する(やけど等)」で、これらで全体の75%を占める。

平成28年4月～平成29年3月に医療機関から消費者庁に報告された事故件数総計(全年齢が対象)

危害の程度 事故のきっかけ	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	合計
転倒	1671	306	5	0	1	1983
転落	1365	328	13	1	2	1709
ぶつかる・当たる	1003	119	4	0	0	1126
誤飲・誤嚥	723	67	3	2	10	805
さわる・接触する	481	71	6	0	2	560
刺す・切る	436	36	1	0	0	473
挟む	257	48	2	0	0	307
有毒ガスの吸引	7	5	1	1	0	14
溺れる	1	3	1	0	0	5
その他	1153	111	3	1	0	1268
不明	30	5	1	0	0	36
合計	7127	1099	40	5	15	8286

全体の
75%

※1 医療機関ネットワーク事業とは、参画する医療機関(平成29年3月末時点で30機関)から事故情報を収集し、再発防止にいかすことを目的とした、消費者庁と独立行政法人国民生活センターとの共同事業。

※2 「軽症」:入院を要さない傷病。「中等症」:生命に危険はないが、入院を要する状態。
「重症」:生命に危険が及ぶ可能性が高い状態。「重篤」:生命に危機が迫っている状態。

※3 主な事故のきっかけの事故内容…

「転落」「転倒」:自転車乗車中の転落、転倒など 「ぶつかる・当たる」:遊具に頭をぶつけるなど
「さわる・接触する」:やけどなど 「誤飲・誤嚥」:医薬品の誤飲、食品で気道閉塞など

医療機関から寄せられた子どもの事故報告件数の内訳②

(対象：平成28年4月から平成29年3月、医療機関ネットワーク事業参画医療機関30病院)

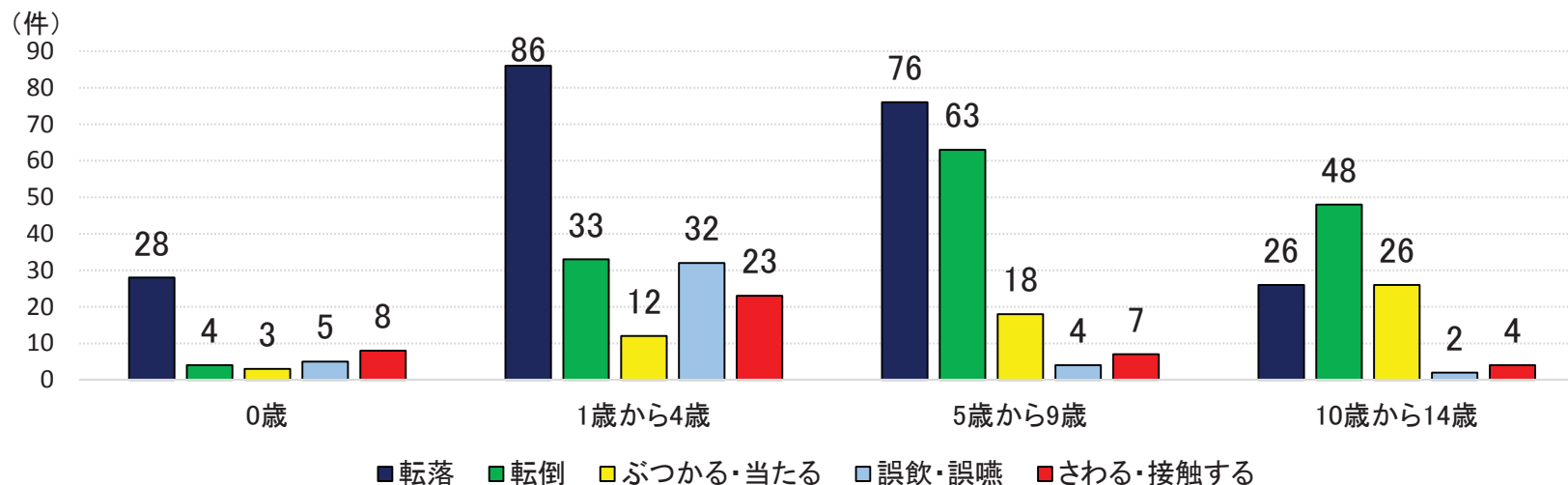
- ①子ども(14歳以下)が中等症や重症といった危害を受けた、報告件数が多い事故のきっかけは、「転落」、「転倒」、「ぶつかる・当たる」、「誤飲・誤嚥」、「さわる・接触する(やけど等)」である。
- ②これらの事故報告件数が、全体の78%を占める。

＜中等症や重症といった危害を受けた子ども(14歳以下)の年齢及び事故のきっかけ別、報告件数＞

事故のきっかけ	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	総計
転落	28	25	27	18	16	16	16	18	18	8	5	8	8	3	2	216
転倒	4	7	7	7	12	6	15	10	18	14	9	11	12	8	8	148
ぶつかる・当たる	3	3	4	4	1	4	4	2	4	4	4	4	6	6	2	59
誤飲・誤嚥	5	17	9	3	3	0	1	2	0	1	0	2	0	0	0	43
さわる・接触する	8	14	7	2	0	2	0	1	1	3	1	0	1	2	0	42
挟む	2	3	3	2	0	1	4	1	4	1	0	0	0	0	0	22
刺す・切る	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	7
溺れる	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
不明	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	4
有毒ガスの吸引	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
その他	19	14	7	6	3	5	7	6	5	6	5	7	2	4	4	100
総計	70	87	64	45	35	36	47	40	51	38	25	36	29	19	25	647

全体の78%

＜「転落」、「転倒」、「ぶつかる・当たる」、「誤飲・誤嚥」、「さわる・接触する」の年齢別件数グラフ＞



医療機関から寄せられた子どもの事故報告件数の内訳③

(対象：平成28年4月から平成29年3月、医療機関ネットワーク事業参画医療機関30病院)

○報告が多い事故のきっかけ、「転落」、「転倒」、「ぶつかる・当たる」、「誤飲・誤嚥」、「さわる・接触する(やけど等)」の事故発生時の状況で、目立つものを以下に例示した。

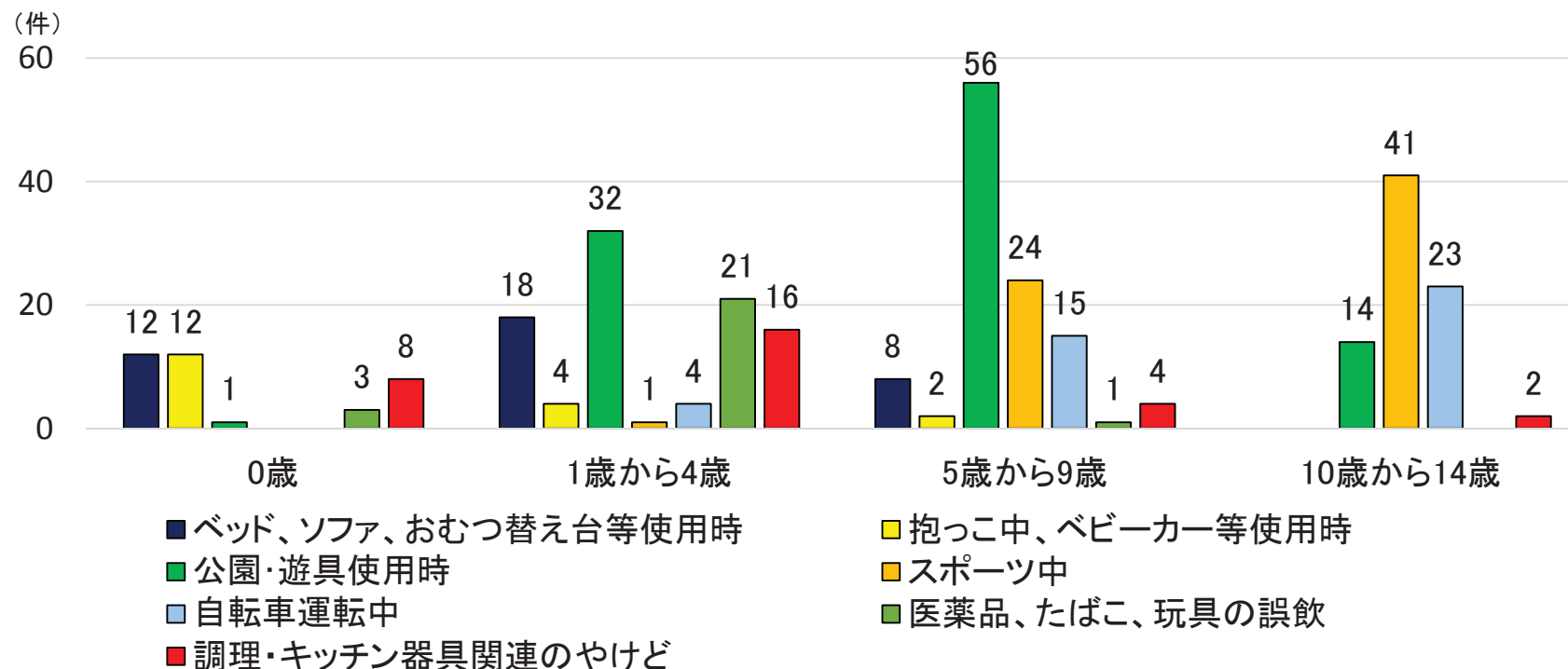
・「転落」、「転倒」、「ぶつかる・当たる」：ベッド、ソファ、おむつ替え台等使用時、抱っこ中、ベビーカー等使用時 公園・遊具使用時、スポーツ中

・「誤飲・誤嚥」： 医薬品、たばこ、玩具の誤飲

・「さわる・接触する」： 調理・キッチン器具関連でのやけど

⇒0歳はベッド使用時や抱っこ中、1歳から9歳は公園・遊具使用時が多く、5歳以上は、スポーツ中や自転車運転中に起きた事故報告が増える。

<中等症以上の危害があった、主な事故の年齢別の報告件数>



医療機関から寄せられた子どもの事故報告の事例

<抱っこひも使用時>

親の首の後ろにある抱っこひものバックルをはめ忘れていたため、肩ひもがずれ落ちて、子どもが地面に転落し骨折。(0歳)



<公園・遊具使用時>

高さ2~3mのすべり台の頂上からバランスを崩して転落。頭骨骨折などで5日間入院。(1歳)



<スポーツ中>

サッカー中に転倒し、左腕を骨折(11歳)。バスケットボール中に鼻骨骨折。(14歳)

<自転車運転時>

自転車で走行中に転倒。ヘルメットはしていなかった。(5歳)

<医薬品の誤飲>

病院で処方された混合シロップをテーブルに置いていたら、子どもが5倍量誤飲していた。(1歳)



<たばこの誤飲>

たばこの吸殻が入った空き缶の液体を子どもが飲んでしまった。(0~1歳)

<調理・キッチン器具でのやけど>

- ・テーブルに電気ケトルを置き、湯沸かし中、子どもがコードを引っ張りケトルが落下して、湯がかかりやけどした。(0歳)
- ・お湯を入れたばかりのカップ麺を子どもが倒し、やけどした。(2歳)

